

総特集

臨床実践にねざした研究で看護の質の向上を

# 日本看護学会 学術集会の未来

S P E C I A L F E A T U R E

日本の看護の質向上に寄与してきた日本看護学会は2019年に50回開催を迎えました。同学会は社会情勢の変化や教育カリキュラム改正などに沿って時代ごとに領域の統合や再編などを重ねてきました。そして現在、3職能と専門領域が連携して地域包括ケアを推進するための課題の討議や解決策の共有ができるよう、2021年度以降の“領域一元化”という転換点に向けて動き始めています。

本臨時増刊号では、これまでに同学会の果たしてきた役割を振り返ります。さらに、研究者・教育者や近年の優秀発表賞受賞者の報告から、実践にねざした研究の意義を確認し、これからの看護研究のあり方についても考えます。新たな学術集会参加の前に、ぜひお読みください。

【企画協力】公益社団法人日本看護協会

担当役員：吉川久美子

看護研修学校校長：吉村浩美

教育研究部部长：渋谷美香

教育研究部学会企画課課長：井後登史子

教育研究部学会企画課課員：金栗美紀／柏愛美／神田真由／山本愛／清水明美

# 看護

臨時増刊号 2020年3月 第72巻 第4号

日本看護協会機関誌

Journal of the Japanese Nursing Association March 2020 Volume 72 / Number 4

総特集

## 臨床実践にねざした研究で看護の質の向上を 日本看護学会学術集会の未来

緒言 日本看護学会学術集会のこれまでとこれから ..... 吉川 久美子 004

### I 日本看護学会の歴史

- I-1 日本看護学会のあゆみ ..... 渋谷 美香 008
- I-2 第50回日本看護学会学術集会を開催して
- 〈急性期看護〉 地域包括ケアを推進する急性期看護を学ぶ ..... 及川 吏智子 018
  - 〈看護教育〉 未来への懸け橋となる“看護の心”を伝える ..... 古川 紀子 019
  - 〈精神看護〉 全領域の看護職に役立つ精神看護を届ける ..... 江守 直美 020
  - 〈在宅看護〉 あらゆる世代・場所・機会に機能する  
在宅看護をめざして ..... 渡邊 カヨ子 021
  - 〈ヘルスプロモーション〉 地域共生社会をめざした人材育成や  
仕組みづくりを学び合う ..... 松本 あつ子 022
  - 〈看護管理〉 激変の時代、看護職が軸足を定める機会に ..... 鈴木 正子 023
  - 〈慢性期看護〉 未来の看護を創造していく変革を意識 ..... 田畑 千穂子 024

### II 臨床実践にねざした研究とは

- II-1-1 研究者・教員の立場から  
これまでの研究活動を振り返り、  
学会委員会委員長として思うこと ..... 松下 年子 026
- II-1-2 研究者・教員の立場から  
看護研究の成果を臨床実践に還元するために ..... 山勢 博彰 030
- II-1-3 研究者・教員の立場から  
研究を通してのユニフィケーション ..... 市村 久美子 034
- II-1-4 研究者・教員の立場から  
臨床実践にねざした研究の必要性 ..... 中尾 友美 036
- II-1-5 研究者・教員の立場から  
問題解決と看護研究の違いおよび臨床研究の特徴 ..... 森 千鶴 038

II-1-6	研究者・教員の立場から 研究的手法で知る臨床実践での疑問解決への手がかかり	藤田 冬子	040
II-1-7	研究者・教員の立場から 看護活動を数値化して見せていくために	湯澤 八江	043
II-2-1	受賞者から 災害時の薬の備えをテーマに	赤平 奈美	046
II-2-2	受賞者から ホームホスピスでの看取りに対する 家族のニーズと願いを探究	富岡 里江	050
II-2-3	受賞者から 経皮的冠動脈形成術後の膨脹時の 対応プロトコルを作成・検証	西條 正子	054
II-2-4	受賞者から 抗精神病薬減量に取り組む 看護師の心の動きと原動力を振り返る	下川 利夫	058
II-2-5	受賞者から 糖尿病教育入院に携わる 看護師の困難をまとめて	白岩 真由美	062
II-2-6	受賞者から 動画教材を使った 小児救急シミュレーション学習を研究して	藤枝 絵美	066
II-2-7	受賞者から 精神科訪問看護利用者の 退院後 3 カ月以内の再入院予防に注目して	山口 達也	070
II-2-8	受賞者から 集中治療室で意識障害の患者と過ごす 家族の思いを明らかに	阿部 政浩	073
II-2-9	受賞者から エジンバラ産後うつ病質問票の結果を分析し 母子支援に生かす	齋藤 勢津子	076
II-2-10	受賞者から 同行訪問を通じたスタッフ支援の見直しが プラスの連鎖を呼んだ過程を報告	川並 和恵	078
II-3	看保連から 診療報酬・介護報酬における 看護の評価につながる臨床研究への期待	小野田 舞	081

## III 看護の未来に向けて

地域包括ケア時代に求められる新たな学会の形	吉川 久美子	088
-----------------------	--------	-----

## IV 資料

1. 年表：本学会の動向と社会の動向	094
2. 学術集会開催概要	104
3. 抄録応募数・採択数、参加者数、領域別参加者数の推移	118
4. 東日本大震災復興支援事業による日本看護学会学術集会参加者の概要	119
5. 論文投稿数と採択数の推移	120
6. 最新看護索引 Web の閲覧数、論文集ダウンロード数の推移	120
7. 優秀発表、優秀論文受賞一覧	121
8. 論文作成支援講座の概要(2011～2016年)	124
9. 学会委員会委員名簿(平成元年から現在まで)	125

★本誌内容の無断複写・転載は著作権法で禁じられています。本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込み、および送信(送信可能化権を含む)・上映・譲渡に関する許諾権は、株式会社日本看護協会出版会が保有しています。

【JCOPY】(出版者著作権管理機構 委託出版物)

本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、その都度事前に一般社団法人出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、email: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

II-2-2 受賞者から

# ホームホスピスでの看取りに対する 家族のニーズと願いを探究



富岡 里江

株式会社ウッディ  
訪問看護ステーションはーと / 訪問看護認定看護師  
(優秀発表賞受賞・論文集掲載 2017年度 在宅看護)

2017年度(第48回)日本看護学会学術集会の「在宅看護」領域で「優秀発表賞」を受賞した研究について、研究内容の紹介とともに、研究着手の背景、施設の支援、研究成果の実践への適用などを述べていただきます。

## 受賞研究の概要

2017年度日本看護学会の在宅看護領域で優秀発表賞を受賞した「ホームホスピス入居者を看取った家族のニーズと願い—遺族へのインタビューの分析結果から—」の研究に着手する前に、遺族の看取りに対する満足度の調査を行った。その際、自記式質問紙の自由記述の中から、ホームホスピスでの看取りに対して、入居者と家族にはさまざまなニーズがあることが推察された。そこで、半構成的面接法を用いた質的研究を行うこととした。

この研究の目的は、ホームホスピスで看取った5人の遺族にインタビューを行い、抽出された遺族のニーズを考察し、支援のあり方の示唆を得る

共同研究者：篠原 実穂、益田 育子

ことである。2013年4月～2016年3月にホームホスピスの入居者を看取った遺族の中で、協力を得られた5人を研究対象とした。故人の疾患は、入居者の中で圧倒的に多いがんの方とした。倫理的配慮として、研究協力大学の倫理委員会の承認を得て実施した。私自身は訪問看護師として故人や遺族にかかわっていたため、時間と場の調整のみを行い、インタビューは共同研究者である大学教員の協力を得て行った。また、周囲を気にせずに行えるように、当法人の多目的カフェスペースにて、人の出入りのない休日に設定した。

インタビュー後、遺族の語りの中からニーズや願いに関する内容をセンテンスの単位で抽出した。その内容を要約、コード化し、カードを作成した。次に、カード間の類似性と相違性、関連性等からグループ化し、カテゴリー、大カテゴリーを抽出し、文章化していった。この部分は、研究協力大学の教員を中心に行った。

この後、2017年9月の日本看護学会—在宅看護—学術集会での発表をめざし、抄録にまとめた。研究者間で文章の校正を重ね、わかりやすい表現とし、演題登録した。発表の際は、まだ周知

されていないホームホスピスについての説明を加え、対象となるホームホスピスの紹介は、画像を使用しイメージできるようにした。結果のスライドは表形式とし、視覚からも内容が理解しやすいよう工夫した。考察では、結果から導かれた支援のあり方を分析し、アニメーションを使用しキーポイントの文字色を変えながら説明した。発表後、訪問看護師とホームホスピスの介護スタッフとの連携のあり方等について質問をいただいた。

その後、2人の研究協力者を得ることができたため、さらにインタビューを重ね検証し、同年の日本在宅看護学会でも発表することができた。日本看護学会での発表を基にまとめたことで、さらに深い考察を行うことができたと思っている。

## 研究着手の背景と施設からの支援

私は1997年から訪問看護に携わっています。2000年に介護保険制度が始まり、20年が経過する中で、病院では在院日数の短縮化が進み、私たちがかわる療養者や家族の層は大きく変化しました。訪問看護の対象者は医療依存度の高い終末期の療養者、複数の医療機器を必要とする難病や医療的ケア児など重症化し、高齢化により複数の疾患を持つ複雑なケースが増えています。一方で、介護を担う家族も多様化し、単身世帯や高齢者のみの世帯、未婚の子どもとその老親の世帯や、働き盛りの子どもが親の介護を1人で背負うケースは珍しくありません。家族の介護力は脆弱になり、複雑な関係性の家族に出会うことも多くなりました。

このような社会情勢や家族背景の変化の下、在宅で看取りを迎えるケースを支援することが増え、特定の介護者に多くの身体的精神的負担が生じていることが気になっていたころ、複合型サー

ビス（現在の看護小規模多機能型居宅介護）が制度化されました。複合型サービスであれば、療養者家族の24時間を点や線ではなく多面的に支援できると思い、2012年に同じ思いを持つ仲間が在籍している訪問看護ステーションは一と（以下：当ステーション）に入職しました。

当ステーションは東京都葛飾区にあり、葛飾区と足立区の一部を訪問エリアとして活動しています。介護保険と医療保険の比率は4対6で、がん末期、神経難病、医療的ケア児への看護に力を入れています。150人余りの利用者のうち、なんらかの医療的管理を要する特別管理加算対象者が45%を占め、重症度が高く、年間80～100人の方を在宅で看取っています。がん・非がんを問わず、緩和ケアに力を入れている事業所です。機能強化型訪問看護ステーションであり、東京都の訪問看護教育ステーションとしての役割も担っています。

当ステーションを運営している株式会社ウッディ（以下：当法人）では、「明るさ」「あたたかさ」「安心」を理念に、最期まで住み慣れた地域で安心して暮らせる街づくりや市民への啓発活動を大切にしています。現在、訪問看護ステーションのほかに、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、住宅型有料老人ホームであるホームホスピス、児童発達支援・放課後等デイサービス、地域の方の交流の場であるカフェを運営しています。2014年から「看ます。生きます。この街で。」というプロジェクトを起ち上げ、地域の多職種連携を目的とした研修会を現在までに58回開催しました。また、同年より法人全体の事業として「いのちを考える市民講座」、翌年から医療的ケア児とその家族を対象とした「サマーキャンプ」や、前年に看取った方の遺族会を毎年行っています。

# 看護 臨時増刊号

3 March  
2020

Volume 72 Number 4

日本看護協会 機関誌  
Journal of the Japanese Nursing Association

発行・発売 2020年3月15日

発行所 株式会社日本看護協会出版会  
東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 4階  
Tel. 0436-23-3271 (コールセンター：ご注文)  
振替 00190-8-168557  
東京都文京区関口 2-3-1  
Tel. 03-5319-8017 (編集直通)

発行人 井部俊子

編集委員 勝又浜子／橋本美穂／吉村浩美／長田晋一／伊藤雄介 (日本看護協会)

アドバイザー委員

(五十音順) 大野千秋 (長谷川病院)・清水將統 (北里大学病院)・  
鈴木英美 (国立病院機構千葉医療センター)・中根直子 (日本赤十字社医療センター)・  
林勝枝 (上尾中央医科グループ協議会)・樋浦裕里 (東京さくら病院)・  
福地洋子 (調布東山病院)・藤田あけみ (取手北相馬保健医療センター医師会病院)

編集 米丸未央子

編集協力 石川奈々子・株式会社自由工房

表紙デザイン 白井新太郎

印刷 図書印刷株式会社

定価 本体 2,000円 + 税